

ニュース
継続した
復興支援活動を
全国の生協で確認
日本生協連

6月14日、ホテルイースト東京21にて、日本生協連第63回通常総会が開催されました。

総会では、特別課題の一つとして提案された東日本大震災支援、とりわけ福島に対する支援、エネルギー・原発問題の取り組みを含めたすべての議案が可決承認されました。

また、会場発言では、東日本大震災の復興支援活動に関する意見が多数出されました。岩手県生協連からは、



総会復興支援コーナーの様子。

三陸唯一の映画館「みやこシネマリー」を運営する、みやこ映画生協への募金の呼び掛けが、福島県生協連からは、「福島の子ども保養プロジェクト」、「土壌スクリーニングプロジェクト」、「食品放射線測定」の活動の報告がありました。また、いばらきコープから「福島の子ども保養プロジェクト」への継続した支援活動の決意表明や、コープおおいだから、震災直後から続いているコープふくしまとの交流支援活動についての報告がありました。

総会会場外では、「3年目の今、私たちにできること」をテーマに、この間の復興支援活動を紹介するブースが設置され、多くの総会参加者が展示に足を止めていました。

ブースに設置されていた、県別の復興支援活動を紹介するタペストリーや、「心に寄りそう場をつくる」、「買って支える」、「福島県産米全袋検査」について紹介するタペストリーは、貸し出し可能です。

お問い合わせは、

日本生協連会員支援本部出版部
八幡、新井

(電話03-5778-8183)まで。

※ タペストリーのイメージ画像は、「情報プラザ」内「復興支援情報」に掲載しています。

被災地からのメッセージ

全国の皆さまへ

みやぎ生協 生活文化部 須藤敏子

私は、震災直後から、地域の組合員活動のサポートを行ってまいりました。どこに行っても、生協への感謝の言葉を耳にします。店舗や宅配の職員、そして組合員ボランティアが頑張っていたんだなあ、全国の生協からたくさんの方が駆け付けて支援をしてくださったおかげだなあと強く思います。

震災から2年がたち、格差が出てきています。災害公営住宅^{※1}も入居希望者が増えていて、住宅を再建したいと思っていた人たちも、いざその決断をせまられるときが来ると、進まない復興の現状に意向とは異なった決断をしなければならない状況です。

そんな方々に少しでもほっとできる時間をつくりたい、ということで、みやぎ生協では「ふれあい喫茶」を開催しておりますが、ここでは、同じ体験をみんなで共有することを大事にしています。「やれることリスト」を送ってくださった生協さんに、手芸品の材料と作り方が一緒になった「手作りキット」をお願いしましたが、みんなで同じ体験ができ、大変助かりました。

全国の生協の方々へ、お菓子を送っていただいたり、本当に

たくさんの方と旧知のお友達のようにお話をさせていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。被災された方が「忘れないでほしい」とどんな気持ちで言っているかを考えながら、これからも活動していけたらと思います。

追伸：

公益財団法人プラン・ジャパン^{※2}、ケア宮城^{※3}が発行している「被災者の心を支えるために 地域で支援活動をする人の心得」は、非常に良い内容です。HPからダウンロードもできますが、ぜひ、取り寄せて、皆さんで読んでいただけたらと思います。

お問い合わせ先

公益財団法人プラン・ジャパン コミュニケーション部
(03-5481-0030、E-mail: library@plan-japan.org)
無償で提供していただけます(数百部単位での提供も可)。

- ※1 家を失った被災者に、自治体が賃貸で提供する住宅のこと。
- ※2 アジアやアフリカ、中南米の開発途上国の「自立」を目指し、現地の子どもたちと共に地域開発を行なっている国際NGO団体。
- ※3 宮城県内の子ども心のケアにあたる人を支援することを目的に、2011年4月に活動を開始した団体。

メッセージ全文は、日本生協連「復興支援ポータルサイト」内、「つながろうCO-OPアクション情報」バナーをクリックし、ご覧いただけます。「日本生協連 復興支援ポータルサイト」でインターネット検索を。

